

# 刀の文化と伝統を伝える

## びぜんおさふね名刀まつり

平安時代から吉井川の水運によってはぐくまれた刀剣のまち長船は、大勢の刀鍛冶が集まり、一大刀剣王国を築き上げました。日本の作刀の中心地として全国にその名をはせ、「鍛冶屋千軒」とうた

われるほど繁栄した時がありました。刀鍛冶の名工を次々と生み、「備前長船」の名を広めた長船で、刀の文化と伝統を伝えるイベント「2005びぜんおさふね名刀まつり」



迫力のある居合切



中世風の衣装で福岡の市を再現

が11月23日、備前おさふね刀剣の里で開催され、約1万人の観客でにぎわいました。オープニングは、岡山城鉄砲隊の火縄銃の実演。12人の鉄砲隊が、火縄銃を構え、発砲。「ズドン」とお腹に響くような大きな音が、場内に響き渡りました。備前長船の地に誕生して17年目を迎える名刀太鼓。その勇壮な演奏に、会場の皆さんから惜しめない拍手が送られました。ステージでは、「居合切」、「大道芸」が披露され、観客の皆さんは見入っていました。鍛錬場では、1、300度の高温で打ち延ばし、玉鋼から不純物を取り除く鍛錬作業を公開。火花が飛び散る様子を、大勢の皆さんが身を乗り出して見つめました。工房では、刀作りに携わる職人の皆さんの手で、刀身研ぎ、彫り、

鞘や柄、鐺の制作が行われました。来場者は、その作業風景を傍らで見入り、次々に質問する姿もありました。会場内には福岡の市も再現され、中世風の衣装で地元の野菜や特産品を販売。15団体が出店し、名刀まつりを盛り上げました。博物館では、特別展「お守り刀展覧会」が開催され、全国からのお守り刀と鞘の展示を楽しむことができました。刀ファンや家族連れが次々に訪れ、刀の魅力や長船の伝統文化、歴史を味わった1日でした。



火花が飛び散る鍛錬作業



名刀太鼓の勇壮な演奏



火縄銃を構える岡山城鉄砲隊



鞘師さんの匠の技



大盛況の名刀まつり